

第2回 船橋市総合計画審議会 小委員会 決定事項について

日時：平成23年1月19日（水）
18:00～

場所：市役所9階第1会議室

出席者：武藤博己会長 中村正董副会長
金沢和子委員 川井洋基委員 河村保輔委員 斉藤忠委員 まきけいこ委員
本木次夫委員 村田佐江子委員 山下瑠璃子委員
企画部長 企画調整課長 課長補佐
三澤、石原、市川、三輪、松丸、矢野

1. 基本計画と総合計画審議会の役割について

- ・内容は基本的な事項であり確認、了承された。
- ・この内容については、別途本会議においても説明することとした。

2. 第二回小委員会でご検討いただく事項について

(1) 子どもや女性への虐待・DV被害防止策について

- ・「631男女共同参画社会の形成」の「施策3) 相談・支援体制の充実」(169頁)において、シェルターの設置そのものは明記しないが、DV被害者へ必要な支援を行っていくという主旨で記述の充実を図ることとした。

(2) 病児・病後児保育の充実について

- ・「122次代の担う子どもの育成」の「施策3) 保育の充実」(51頁)において、病児・病後児保育に関する取り組みについて加筆することとした。

(3) 生涯学習／生涯教育について

- ・「311生涯学習の推進」の《現状と課題》(104頁)において、生涯学習の定義を明確にすることとし、生涯学習の視点から家庭教育、学校教育、社会教育を総合的に捉え、相互の連携・協力を図ることや、第二次船橋市生涯学習基本構想・推進計画について加筆することとした。

(4) 地域で子どもを守り育てる環境等について

- ・「331関係機関との連携による家庭と地域の教育力の向上」の《現状と課題》(112頁)において、家庭教育の定義やその問題点、地域の役割などについて加筆することとした。

(5) 子どもが自己肯定感を持てるような方向性について

- ・「3 3 2 豊かな知性と確かな学力、健やかな身体の育成」の《目指すべき姿》(114 頁)において、「自らが一人の人間として大切されるという実感が持てる」、という概念を表す「自己肯定感」という言葉を加筆することとした。

(6) 中小小売店舗への支援等について

- ・「4 1 3 魅力ある商業の振興」の《現状と課題》及び「施策2 商店街の活性化と経営の高度化」(130, 131 頁)において、中小小売店が社会に果たしている役割、経営の改善や活性化に向けた支援の必要性、方向性などについて加筆することとした。

(7) 起業支援と開業率について

- ・「4 1 2 変化に対応できる地域産業の振興・育成」の《指標》(128 頁)において、ベンチャープラザの稼働率に加えて、開業率や事業所数に関わる何らかの指標を設定することとし、具体的にどのような指標を設定するかは、事務局で検討することとした。

(8) 職業教育について

- ・「4 1 6 暮らしを支える雇用環境の充実」の「施策1) 雇用の安定」(137 頁)において、関係機関との連携により、インターンシップ等の就労支援や自立支援に関する取り組みについて加筆を行うこととした。

インターンシップ・・・学生が働くことに対する理解を深めるために就業体験を行うこと

(9) 畜産業について

- ・「4 2 1 活力あふれる都市農業の振興」(138 頁)において、畜産業だけでなく、農業全般を対象として、6次産業化や地産地消など、その振興に向けた取り組みの記述を充実することとした。

6次産業・・・第1次産業(農業)と2次産業(製造業)、3次産業(小売業)を融合・連携させ、生産者が、加工や消費者への販売まで自ら行うもの。1+2+3次産業から6次産業と呼ばれる。

(10) 生産の場と直結した船橋らしい消費生活について

- ・「4 3 1 安心できる消費生活の確立」の《施策の方針》(144 頁)において、食の生産現場と消費者の近さを活かした、消費者が学べる環境や地産地消、豊かな消費生活について加筆するとともに、施策3として「豊かな消費生活の実現」を追加し、主要事業として、地産地消の推進を追記することとした。

(以上)